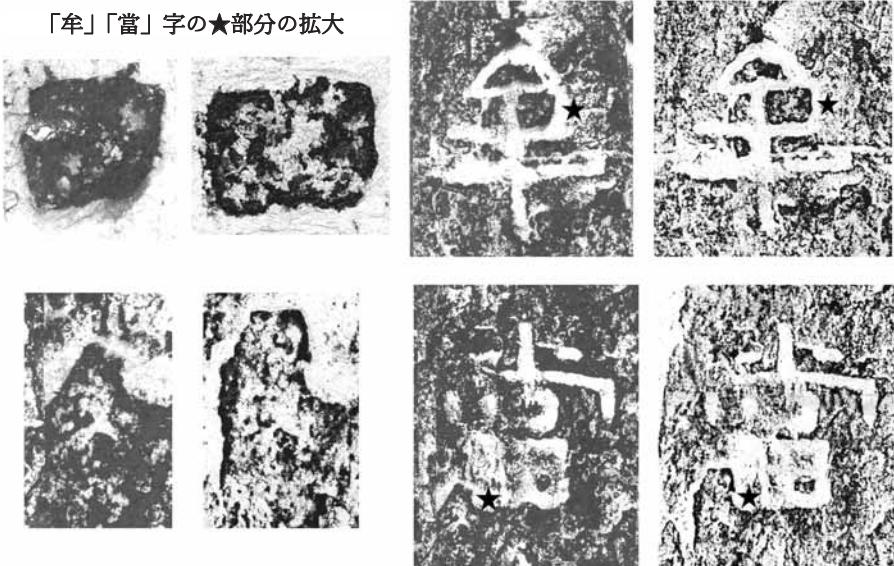


「落ち穂拾い記」 『楊淮表紀』

(45)

図版② 「牟」「當」字比較（右が旧拓本）

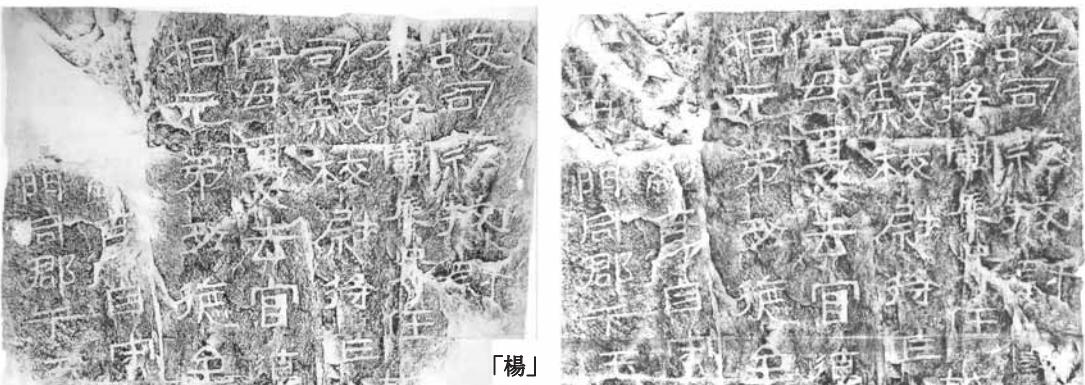
「牟」「當」字の★部分の拡大



図版① 「楊淮表紀」上部比較

「黄」

「楊」



漢中の摩崖刻石の書は、また一段と魅力的である。陝西省から四川省へのルートの途中に漢中は位置する。古代の人々は、この険しい山岳峡谷の岩山にトンネルなどを掘削しながら長い年月をかけて道路を完成させ、その崖壁に記念の碑文を刻した。漢時代から宋時代までの書として優れた摩崖刻石十三種が知られる。その中でも『開通褒斜道刻石』を始めとして『石門頌』『楊淮表紀』『石門銘』の四種は、書の古典として多くの人に学ばれている。素朴な趣のある書の『楊淮表紀』（整拓本）は、大きさも手頃であり、早くに入手した記憶がある。『楊淮表紀』の摩崖石質は非常に堅く、文字の保存状態も大変良い。新旧の拓本の差は、ほとんど無い。しかし古くから末行上部の「黄」字があるか否かが、『楊淮表紀』拓本の新旧の判断の論拠とされ、「黄」字が拓出されたものが旧拓であると（図版①）。半世紀前にダム建設によって、十三品等の摩崖刻石が漢中博物館に移設された末行の上部にやや大きな凹凸がある。手拓する人により、この凹凸部分を丁寧に拓すれば、文字が現れ、粗雑に拓する場合には、文字が刻されてない破損部分として白く仕上がる。「黄」字の有る無しは、新旧の差ではなく、手拓技倆の差であると考えている。近年は、文字が刻された平坦な部分の字画外の変化を、新旧拓本の根拠とする見解が発表されている。5行目の第6、8字の「牟」「當(當)」字である。牟の上の三角部分と右下の次の横画の間の★印を付した四角の形が、また「當」字の左横にいただいた。丁寧に破れを直し裏打ちをした。「黄」「楊」字等は拓出されず、近年の新旧の論拠とされる所は、まさに旧拓状況を示している。右頁の主図版は、整拓本『楊淮表紀』の上半部の6字をほぼ原寸で示した。

伊藤滋（書齋名・木鶴室）

書道芸術院 令和の群像 (2023)

「心」とばおほく



庄 司 紅 郷

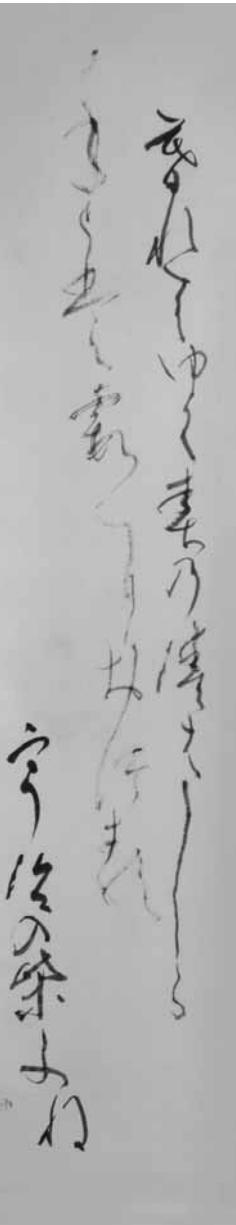
書道家としてはすでに名をなし、宮城県の中心的存在であった。声をかけていただき、私はいつも末席であったが、先生の哲学者としてのオーラに圧倒され、このような人が古来「文人」として尊敬されるのだと納得した。

月刊誌『洗心』で学び有井先生からは「汲古洗心」という言葉をいただいた。先生のつけて下さる朱の花丸が欲しくて休むことなく通い、字をおぼえた。小6の書初展で「四海春風」という作品で全国最優秀賞をいただき大変嬉しかったのを鮮明に記憶している。

その後書とは離れていたが、大学生になって仙台市在住の有井凌雲先生にご指導をいただく幸運に恵まれた。私の縁にあたり縁があつて現在の居住地福島市に嫁ぎ、子育てが一段落した頃に恩師加藤紅樹先生に出会えた。先生はかな書道を東北、福島の地に広めたいとの熱い想いで勉強を重ね

ていらした。当時の毎日書道展の実力者水井幸子先生に師事し仕事も辞めて東京に通われた。その時の成果を私達門下生に惜しがもなく分けて下さり、人としての度量の大ささを身をもって示して下さった。私達社中の者が、毎日書道展・書道芸術院展等に出品し、学びを深めることができたのは先生のご指導の賜と今さらながら感謝の念でいっぱいである。

作品作りで行き詰った時、先生のことばを思い出す。「勉強は自分をみがく修養の場であり、美しいものと出逢うよろこびである」と常々おっしゃっていた。人としての成長も書道をきわめる上で大事なことであり、心の豊かさがどれほど大事なことかと折にふれて語られた。恩師、先輩、仲間の方々にこれから何をもってご恩返しをすればよいのだろうか。伝統と創造、困難な道である。日本文化の宝であるかな書道を専攻し、学び途上の私である。持てる力を少しでも後輩の方々のために役立てたいとささやかに願っている。「心ことばおほくあはれび」(古今集仮名序より) 身にしみて感じている昨今である。



第76回書道芸術院展「暮れてゆく」(200×53cm)

庄 司 紅 郷 書

書のひろば

理事長 下谷洋子

第56回書道芸術院単位認定講習会 盛岡市つなぎ温泉にて開催

書道芸術院の主要行事の一つ、単位認定講習会は、昭和41年より、審査会員昇格のための必要な修得単位として一般教養を含め「漢・か・現・篆・刻・前」の講座を設けて実施してきました。

平成24年からは科目にさらに書写を加え令和元年までは開催地は東西の総支局が交代しての運営でした。そこにコロナ禍、今年は8月19日～20日まで実際に4年ぶりに北日本総局によって盛岡つなぎ温泉での講習会が実現しました。岩手山を見渡せる静かで自然豊かなつなぎ温泉でしたが、元来岩手は、書の創作活動とも関係が深い石川啄木や宮沢賢治など歴史的文化人を育んだ土地で、近年は、世界で2番目に訪れたい土地として盛岡が入っているとか。待ちに待った方も多かったためか、定員オーバーの130人余、開会式での参加者の真剣な表情が新鮮でした。

コロナも完全収束ではないため、また、この3年の間に単位認定講習会そのものを見直す機会もあり、今回は、科目こそ従来と同じですが、講習時間を見短縮し、一日半の日程となりました。



受講者代表による謝辞



初日は原拓書道史から

19日の午後から始まり、その日は原漢字・かな・前衛と従来通りの科目が組まれました。講師、助講師以外にも各先生方から、相当幅広い指導をいただけたことと思います。今後の活動に生かされることでしょう。来年は、岡山を予定しています。（講習会の詳細は来月号に掲載）



北日本支局から来年の
山陽支局へバトンタッチ

書道芸術院秋季展 公募選考・選抜作家・14人展他 作品確認など実施

本年の書道芸術院秋季展ですが、併催のアートサロン毎日での「推薦作家展」の14人（1人不出品）の作品は既に7月24日に、また、財団役員を含む選抜作家126人は8月8日に、作品確認を行いました。

審査会員候補公募作品の選考は、審査員6名により8月8日の確認作業に合わせて行われ、「秋季菊花賞」10名、「秋季俊英賞」41名が決まりました。応募数は各部計305点、181名で、出品点数は昨年より若干増えました。

今年は、10月7日に昨年同様、紙パルプ会館3階の会議室にて表彰式・作品研究会と「推薦作家展」の作品研究会を行いますが、終了後2階において久しぶりに懇親会を行うことになりました。入賞者は下記の通りです。

秋季菊花賞 (10名)	秋季俊英賞 (41名)
漢字 新井 春麗 現詩 永井 春香 前衛 前田 花峰 篆刻 佐藤 明香 前衛 荒谷 成美 篆刻 佐藤 明美 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 美帆 篆刻 佐藤 香来 篆刻 佐藤 秀水 篆刻 佐藤 香艸 篆刻 佐藤 翠香 篆刻 佐藤 峰雪 篆刻 佐藤 正岡 篆刻 佐藤 半澤 篆刻 佐藤 谷 篆刻 佐藤 鈴木 篆刻 佐藤 金澤 篆刻 佐藤 小谷 篆刻 佐藤 伊藤 篆刻 佐藤 珠己	漢字 伊藤 春麗 現詩 永井 春香 前衛 前田 花峰 篆刻 佐藤 明香 篆刻 佐藤 成美 篆刻 佐藤 明美 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 美帆 篆刻 佐藤 香来 篆刻 佐藤 秀水 篆刻 佐藤 香艸 篆刻 佐藤 翠香 篆刻 佐藤 峰雪 篆刻 佐藤 正岡 篆刻 佐藤 半澤 篆刻 佐藤 谷 篆刻 佐藤 鈴木 篆刻 佐藤 金澤 篆刻 佐藤 小谷 篆刻 佐藤 伊藤 篆刻 佐藤 珠己
篆刻 佐藤 春麗 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 花峰 篆刻 佐藤 明香 篆刻 佐藤 成美 篆刻 佐藤 明美 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 美帆 篆刻 佐藤 香来 篆刻 佐藤 秀水 篆刻 佐藤 香艸 篆刻 佐藤 翠香 篆刻 佐藤 峰雪 篆刻 佐藤 正岡 篆刻 佐藤 半澤 篆刻 佐藤 谷 篆刻 佐藤 鈴木 篆刻 佐藤 金澤 篆刻 佐藤 小谷 篆刻 佐藤 伊藤 篆刻 佐藤 珠己	篆刻 佐藤 春麗 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 花峰 篆刻 佐藤 明香 篆刻 佐藤 成美 篆刻 佐藤 明美 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 美帆 篆刻 佐藤 香来 篆刻 佐藤 秀水 篆刻 佐藤 香艸 篆刻 佐藤 翠香 篆刻 佐藤 峰雪 篆刻 佐藤 正岡 篆刻 佐藤 半澤 篆刻 佐藤 谷 篆刻 佐藤 鈴木 篆刻 佐藤 金澤 篆刻 佐藤 小谷 篆刻 佐藤 伊藤 篆刻 佐藤 珠己
篆刻 佐藤 春麗 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 花峰 篆刻 佐藤 明香 篆刻 佐藤 成美 篆刻 佐藤 明美 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 美帆 篆刻 佐藤 香来 篆刻 佐藤 秀水 篆刻 佐藤 香艸 篆刻 佐藤 翠香 篆刻 佐藤 峰雪 篆刻 佐藤 正岡 篆刻 佐藤 半澤 篆刻 佐藤 谷 篆刻 佐藤 鈴木 篆刻 佐藤 金澤 篆刻 佐藤 小谷 篆刻 佐藤 伊藤 篆刻 佐藤 珠己	篆刻 佐藤 春麗 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 花峰 篆刻 佐藤 明香 篆刻 佐藤 成美 篆刻 佐藤 明美 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 美帆 篆刻 佐藤 香来 篆刻 佐藤 秀水 篆刻 佐藤 香艸 篆刻 佐藤 翠香 篆刻 佐藤 峰雪 篆刻 佐藤 正岡 篆刻 佐藤 半澤 篆刻 佐藤 谷 篆刻 佐藤 鈴木 篆刻 佐藤 金澤 篆刻 佐藤 小谷 篆刻 佐藤 伊藤 篆刻 佐藤 珠己
篆刻 佐藤 春麗 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 花峰 篆刻 佐藤 明香 篆刻 佐藤 成美 篆刻 佐藤 明美 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 美帆 篆刻 佐藤 香来 篆刻 佐藤 秀水 篆刻 佐藤 香艸 篆刻 佐藤 翠香 篆刻 佐藤 峰雪 篆刻 佐藤 正岡 篆刻 佐藤 半澤 篆刻 佐藤 谷 篆刻 佐藤 鈴木 篆刻 佐藤 金澤 篆刻 佐藤 小谷 篆刻 佐藤 伊藤 篆刻 佐藤 珠己	篆刻 佐藤 春麗 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 花峰 篆刻 佐藤 明香 篆刻 佐藤 成美 篆刻 佐藤 明美 篆刻 佐藤 春香 篆刻 佐藤 美帆 篆刻 佐藤 香来 篆刻 佐藤 秀水 篆刻 佐藤 香艸 篆刻 佐藤 翠香 篆刻 佐藤 峰雪 篆刻 佐藤 正岡 篆刻 佐藤 半澤 篆刻 佐藤 谷 篆刻 佐藤 鈴木 篆刻 佐藤 金澤 篆刻 佐藤 小谷 篆刻 佐藤 伊藤 篆刻 佐藤 珠己

現代詩文書基礎基本講座(40)

小竹石雲

原帖



②発展的臨書



①写実的臨書



【伊都内親王願文】平安 伝橘逸勢
(?~842)
三筆(空海・嵯峨天皇・橘逸勢)の
ひとり、橘逸勢の筆とされているが、
確証はない。桓武天皇の第8皇女で、
在原業平の母である伊都内親王が、
生母藤原平子の遺言で、山階寺に香
灯と読経料として墾田16町ほどを寄
進した際の願文。

② 橘逸勢は細節にこだわらない自由
闊達な人柄で、秀才であったと伝
えられている。字形は概ね縦長・右
肩上がりで実に健康的な伸びや
かさと、骨力に満ちている。文字の
大小の変化も巧みにしながらも
筋度を失することがない。また心
情には「願文」という特殊な内容
への敬虔さが感じられる。
① 写実的臨書
多くの肉円勢な箇所だが、練達した書
技の自在性はユニークで素晴らしい。
俯仰法を駆使したと説かれてい
るが、ことさら意識的にせざ基
幹を羲之において書いた。

発展的臨書
書文線帖遠頤文本來の仏への帰依の精神から
いあてて書が理解できるようにも思った。願
いを感じがした。
考へた。根幹(精神)が表現された。根幹(精神)
まだまだ先は遠

基礎基本講座

前衛書基礎基本講座(16)

千葉蒼玄

文字は本来、形の組み合せによって構成されている。「峰」を分解する。



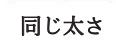
①

この三つを自由に組み合わせると、今までにない形が作られる。



②

②の組み合わせで線に変化をつける。



③

上部を渴筆で白く、下部を黒く。重心を上にあげた作(1)と下部にした
作(2)を2例作ってみた。題名は「峰」から「HOU」とした。



(1)



(2)

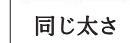


濃淡を変化

上部黒く

下部黒く

下部黒く凝縮



同じ太さ

上部細・下部太

左右で変化



特集 第74回毎日書道展

国立新美術館 東京都美術館
7月19日(水)～7月24日(月)

7月12日(水)～8月6日(日)

第74回毎日書道展総評

下谷洋子

3年間コロナウイルス感染症に翻弄された毎日書道展でしたが、今回はコロナ禍以前に戻り、搬入から鑑別・審査、表彰式と例年通りの進行方法がとられた。祝賀会こそ開かれなかつたが、終始活気に満ちた本展となつた。

出品点数は昨年よりも少々減少し（芸術院はほぼ横ばい）、そのためもあつてか若干入選率は上がつた。今年は岡重和実行委員長の襟を正す厳しい声かけも功を奏して、各部とも以前にもまして鑑別審査は緊張感に包まれていった。

来年は75回の記念展となるので、今回惜しくも悔しい思いをした方も、次回に向けて早速取り組んでほしい。

実行委員長・片岡重和（漢字）

審査部長・赤平泰処（漢字）

総務部長・山中翠谷（大字）

陳列部長・丸尾鑑使（前衛）

既報の通り。

各当番審査員、会員賞審査委員他は、

全出品者を対象とする文部科学大臣賞にはかな部松井玉筆氏（日書美）の月を詠んだ歌が受賞。会員賞には本院よりかな部・京綿子氏、近代詩文書部・小竹正高氏、大字書部・岡村恵慈氏の3名が受賞した。その他の毎日賞以下の受賞者は別途に記載した。

東京展国立新美術館は7月12日～8月6日、前期後期各Ⅰ／Ⅱ期、計4回

の陳列替えで行われ、東京都美術館は7月19日～24日まで、理事・監事の2作目と東京展関係入選作、書の甲子園入賞作品が展示された。

東京展以降は、全国の9会場にて地方展が開催される。各地方の会員の方々が協力をお願いしたい。

支援ご協力をお願ひしたい。

・関西展 8月16日～20日

京都市京セラ美術館他

なお、審査会員以上を対象に、この「現代の書 新春展」のセントラル

○運営委員（本院関係）

木村東舟（かな）佐藤無極（近詩）

飯田春香（大字）太田蓮紅（前衛）

各当番審査員、会員賞審査委員他は、

・中国展 8月22日～27日

富山県民会館

広島県立美術館

会期2024年1月4日～9日

（本院関係）

・北海道展

8月23日～27日

愛媛県美術館

9月15日～20日

・四国展

8月23日～27日

・東北仙巣

9月15日～20日

・九州展

9月27日～10月1日

札幌市民ギャラリー他

・東北山形

10月18日～22日

山形美術館

・山形美術館

10月31日～11月5日

大分県立美術館

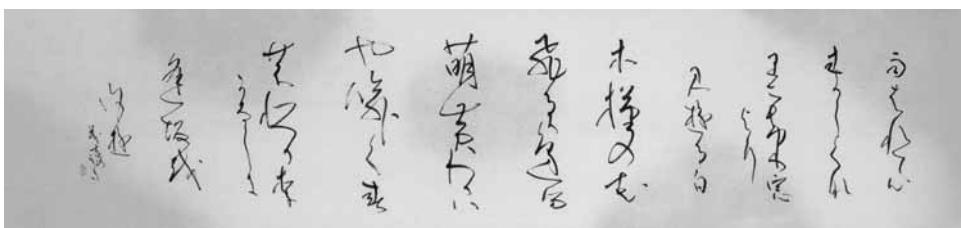
ミュージアム銀座会場の出品者が選考される。本年は生年が西暦偶数年の審査会員以上から100人が推薦された。
（本院関係）
・セイコーハウス銀座ホール展（役員展）
小竹石雲、下谷洋子
・セントラル会場100人展
畠中弄石、半田藤扇、真下京子
九條純代、小林琴水、田子白嶺
種谷萬城、千葉紅雪の各氏。



毎日書道展会員賞（副賞）
「櫛造花入」（川北良造 作）

（川北良造・重要無形文化財保持者（人間国宝））

会員賞



かな部 京子



京

(かな部)
絹子

書との出会いから約60年、この度、会員賞を賜りありがとうございました。これも下谷洋子先生、書道芸術院の皆様、書友会の方々のおかげと心より感謝いたします。

ご縁を頂き7月15日に国立新美術館で席上揮毫をさせて頂きました。広い講堂で揮毫することは私にとって大きな体験でしたが、何度も練習を重ね、ほぼ平常心で書き上げることが出来ました。

大河ドラマで信長役をされた岡田准一さんが、セリフは覚えるのではなく自分の言葉になるまで練習を重ねるのだと番組でおっしゃっておられました。私にとっての書も同じことで日々の練習がとても大切なことだと実感しました。これからも臨書を中心に日々鍛錬し次の世代に書の楽しさを伝えていけたらと思います。

今後ともご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



近代詩文書部 小竹正高

会員賞

小竹正高
(近代詩文書部)

この度は第74回毎日書道展におきまして、栄えある会員賞を賜り心よりお礼申し上げます。

これもひとえに書道芸術院・白扇書道会の諸先生方、父であり師である小竹石雲先生、多くの皆様の御蔭と感謝申し上げます。

今回の作品は、「感動を繋げる」をテーマにしました。コロナ禍以降、社会情勢に鬱々とした気持ちでいた中、東京オリンピック、WBCなど世界で活躍する選手を観て、たくさんの勇気と感動をもらい、この気持ちが作品に取り組む力となりました。毎日書道展を初めて観に行った際、作品から訴えかけてくるパワーに衝撃を受けたことを思い出しました。今回、初めて自作の言葉で挑戦しました。限られた時間の中、少しでも納得のいく作品に近づきたく試行錯誤を重ねてきました。

今後は微力ながら益々精進していくますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申しあげます。

会員賞



岡 村 恵 窓
(大字書部)

特集：第74回毎日書道展

この度は会員賞を頂き、驚きと喜びで身の引き締まる思いでいっぱいです。何より書道芸術院の先生方、ご指導いただいています小林琴水先生、石田春窓先生、そして作品制作にあたっては、春洋会の若い人達の勢いある刺激を受けて勉強させて頂いたお陰と深く感謝しております。きっと故・恩地春洋先生も喜んで頂いていることと思います。今回の作品「熱」は、コロナ禍から少し解放され、久しぶり

この度は会員賞を頂き、驚きと喜びで身の引き締まる思いでいっぱいです。何より書道芸術院の先生方、ご指導いただいています小林琴水先生、石田春窓

い思いを表現してみました。自分の好きなことに熱く燃え、喜びを感じることができます。この賞を励みに日々おろそかになってしまう古典の臨書を怠らず、少しでも創作へと繋がるよう精進してまいりました。これからもご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。



大字書部 岡 村 恵 窓

第74回展書道芸術院出品数 (公募・会友)

書道芸術院	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
本年度	193	181	109	139	416	183	0	40	359	1620
73回展	180	192	122	139	415	171		42	355	1616
増減	13	-11	-13	0	1	12	0	-2	4	4

第74回展書道芸術院受賞者数

賞名	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
会員賞				1		1				3
毎日賞	2	1	1	1	3	1			3	12
秀作賞	1	5	3	2	6	4		1	4	26
佳作賞	4	9	2	6	13	6		2	12	54
U23毎日賞				1						1
U23新銳賞					1					1
U23奨励賞		1		1	1	1			2	6
合計	7	16	6	12	25	13	0	3	21	103

毎 日 賞



漢字部II類
高安翔琴

將馬潯
歸別客
陽江在
時船頭宿
不泛酒
漫醉
聲聞
問潭者
誰
是行一節春泉云書

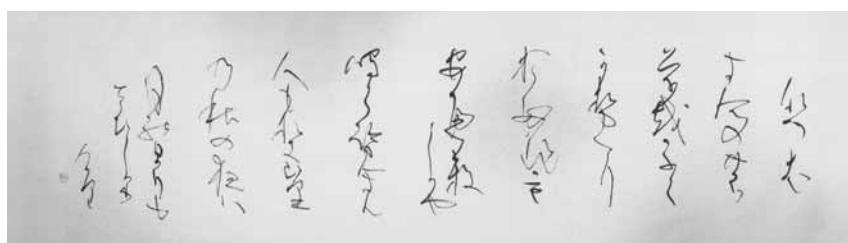
漢字部I類
宮崎春泉

樹圓庵
曉霧花
難有秋
葉散能
落
鶴舞風
月夜
江流
照水
山賓
山
朝
暮
鳥
傾
三
葉
西
行
春
泉
云
書

漢字部I類
小野無改

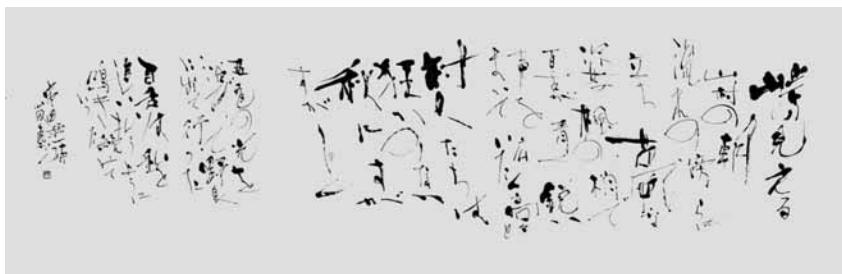


かな部I類
木村関泉



かな部II類
斎藤杏邑

毎日賞



近代詩文書部 中島俊恵



近代詩文書部 貫名桂峰



近代詩文書部 古谷天岳



前衛書部 工藤史音



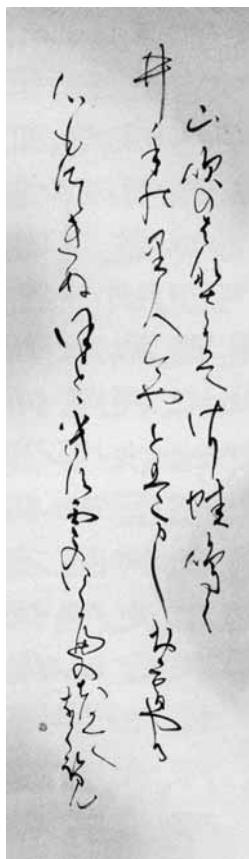
大字書部 市川将義

毎
日
賞



前衛書部 佐藤紅茜

U
23 每日賞



かな部Ⅱ類
加藤万丈

前衛書部
蛭川友香里



毎日賞（副賞）
「櫟造筆筒」(川北良造 作)

秀作賞受賞者

佳作賞受賞者

前衛書部

大町菜円 栗原りか 佐藤糾筋
庄司咏艸 高木佳月 田子恵琉
田中澄花 花里智子 藤田香園
御園生芳瑠 胸組紅琳 佐々木田鬱子

- ・漢字部（I類）
妻藤江葉
- ・漢字部（II類）
青木藤漣 阿部雅悠 上田琴秀
紺野遊山 新行内秀蘭
- ・かな部（I類）
秋山久枝 高橋佳子 松本泰子
- ・かな部（II類）
篠田祐子 東宮香織

- ・漢字部（I類）
伊藤珠己 小松賢龍 前田潤来
山崎皐月
- ・漢字部（II類）
池田筝紗 小山谷玲 浩谷寅江
笨睦月 田中翠恵 種谷悠輝
堀田白扇 三浦英樹 山崎晴美
- ・かな部（I類）
大崎香織 小峰美加子
- ・かな部（II類）
生方由美子 島尻龍一 濱田陽一
目良まゆみ 山田純子 木村裕子

・近代詩文書部

新井優月

- ・かな部（II類）
秋山之扇 井口靜峰 大林溪心
岡本要翠 齊藤一翠 坂本蓉花
庄司櫻空 田澤館楓 土橋芳艸
- ・漢字部（II類）
保谷美芳 松村秀扇 目黒里実
- ・漢字部（I類）
仲上美佳子

- ・漢字部（II類）
大崎香織 小峰美加子
- ・かな部（I類）
大崎香織 小峰美加子
- ・近代詩文書部
生方由美子 島尻龍一 濱田陽一
目良まゆみ 山田純子 木村裕子

U23 新銳賞

U23 獎励賞

秀作賞受賞者

佳作賞受賞者

前衛書部

大町菜円 栗原りか 佐藤糾筋
庄司咏艸 高木佳月 田子恵琉
田中澄花 花里智子 藤田香園
御園生芳瑠 胸組紅琳 佐々木田鬱子

- ・漢字部（I類）
妻藤江葉
- ・漢字部（II類）
青木藤漣 阿部雅悠 上田琴秀
紺野遊山 新行内秀蘭
- ・かな部（I類）
秋山久枝 高橋佳子 松本泰子
- ・かな部（II類）
篠田祐子 東宮香織

- ・漢字部（I類）
伊藤珠己 小松賢龍 前田潤来
山崎皐月
- ・漢字部（II類）
池田筝紗 小山谷玲 浩谷寅江
笨睦月 田中翠恵 種谷悠輝
堀田白扇 三浦英樹 山崎晴美
- ・かな部（I類）
大崎香織 小峰美加子
- ・かな部（II類）
生方由美子 島尻龍一 濱田陽一
目良まゆみ 山田純子 木村裕子

・近代詩文書部

新井優月

- ・かな部（II類）
秋山之扇 井口靜峰 大林溪心
岡本要翠 齊藤一翠 坂本蓉花
庄司櫻空 田澤館楓 土橋芳艸
- ・漢字部（II類）
保谷美芳 松村秀扇 目黒里実
- ・漢字部（I類）
仲上美佳子

- ・漢字部（II類）
大崎香織 小峰美加子
- ・かな部（I類）
大崎香織 小峰美加子
- ・近代詩文書部
生方由美子 島尻龍一 濱田陽一
目良まゆみ 山田純子 木村裕子

U23 獎励賞

U23 新銳賞

特集：第74回毎日書道展

- ・前衛書部
石黒和喜 名取雅子 廣瀬幸枝
大和愛香 笹森詩野
- ・刻字部
河岡北秀 小池明煌 富原扇水
永見史童 山口真喜子 正木菊枝
佐々木眞子 加藤鶴流
佐々木眞心

- ・前衛書部
河岡北秀 小池明煌 富原扇水
永見史童 山口真喜子 正木菊枝
佐々木眞子 加藤鶴流
佐々木眞心
- ・刻字部
大原律子 坂井白萩 寺前華扇
藤原聖美 佐々木豊苑 佐藤佳鳳
西山葵龍

- ・前衛書部
梶原由未
- ・刻字部
浅野日向子 須藤有優美



U23 新銳賞（副賞）



U23 每日賞（副賞）



秀作賞（副賞）「櫻造文鎮」(川北良造 監修)



U23 奨励賞（副賞）



佳作賞（副賞）「櫻造筆置」
(川北良造 監修)

令和5年度 新審査会員作品

鍛治 翠香（漢）・野村 知（か）・遠藤 光葉（現）・浜野 永篁（漢）

鍛治 翠香
(大阪)

「綺」

この度は審査会員に昇格させていただき、ご指導いただきております書道芸術院・春洋会の諸先生方、書友の皆様に心より感謝します。いつの日か、目を奪うような美しく華やかな作品が書けるようになりたいと願いを込めて、「綺」と書きました。

今後とも変わらずご指導のほど、お願い申し上げます。
(翠香)



野村 知
(高知)

「はなをみる」



審査会員へのご推挙、責任重大と身の引き締まる思いです。下谷洋子先生の厳しくもやさしいご指導、社中の皆様のお陰と有難く思っております。この花の字形が大好きで、山家集より作品を仕上げたこともあり西行の歌を選びました。今後はさらに気を引き締め精進いたします。
(知)



遠藤光葉
(宮城)

「山口誓子の句」

この度は審査会員にご推挙頂きありがとうございます。現代詩文書はある講習に参加した縁で好きになり、現在は木村貴衣先生のもとで学び、千葉蒼玄先生に指導していただいております。「継続は力なり」。まだまだ未熟ですが、これからも日々研鑽していくたいと思います。

(光葉)



浜野永篁
(東京)

「筆海墨龍」

師匠の美しい楷書に憧れて入門し早、数十年。仕事と子育ての合間に楽しんできた書道ですが、勉強不足のため作品づくりに四苦八苦の日々です。

この度のご推挙は、東福青篁先生はじめ諸先生方のお陰と感謝しております。今後さらに古典の練習を重ね、躍動感のある書作を目指して励みます。
(永篁)

令和5年度 新審査会員作品

II 岸 直美（前）・富澤 白雲（か）・徳永美恵子（か）・吉田 恵弦（前）

岸
直美
(群馬)

「挑」



この度は審査会員にご推挙頂きありがとうございます。
眞下京子先生に高校生の時からご指導いただき、良き仲間にも恵まれ学び続けることができました。世の中の動き、変化にもアンテナを張り、生きた作品が書けるよう挑戦していきたいです。

(直美)



徳永美恵子
(群馬)

「山風に」



この度は、審査会員にご推挙いただき、誠にありがとうございます。また、下谷洋子先生をはじめ、書泉会の諸先生方のご指導にも、深く感謝申し上げます。今後も、かなめの美しさを作品の中で表現できるよう、精進してまいりたいと思います。

(美恵子)



吉田 恵弦
(宮城)

「温故知新」

審査会員にご推挙頂き、感謝無量です。書道芸術院、宮城野書人会、千書の会、四枝社の諸先生、玄穹社の千葉蒼玄先生・紅雪先生の熱心なご指導と書友の皆様のお陰と心から感謝申し上げます。古典を学び、クリエイティブな作品を生み出すため、精進を重ねて参ります。(恵弦)



富澤 白雲
(群馬)

「いにしへの」



この度は審査会員にご推挙いただき誠にありがとうございます。
いつも熱心に、そして温かくご指導下さる会長の下谷洋子先生、師匠の田子白嶺先生、書泉会の先生方に感謝申し上げます。
書を続けられる環境に感謝し、初心を忘れず、なお精進していきたいと思います。

(白雲)

じゅうしおじょう
十七帖 ③

漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

II (A・大作の部 每月展覧販・販賣料内 2×6尺・金額も可)
(B・小品の部 半切以上半切以内 絹絵に内可) (A・B縦横混用) 部分以外も可。

△三井本▽

〈解説〉

ち波清晏出矣山川也

出矣山川也是名也

且山川形勢乃爾

山海

上野本「名處」



(三井記念美術館蔵)

(掲載図版・72%に縮小)

今月の課題は、28通目の「清晏帖」。周撫の治める蜀の地を訪ねたい、という内容である。山水に遊ぶことは老子・莊子の説く理想的な境地に入る一方法だった。この帖では、適度な連綿と細い線による軽快なリズムが全体を明るくしていることに留意したい。

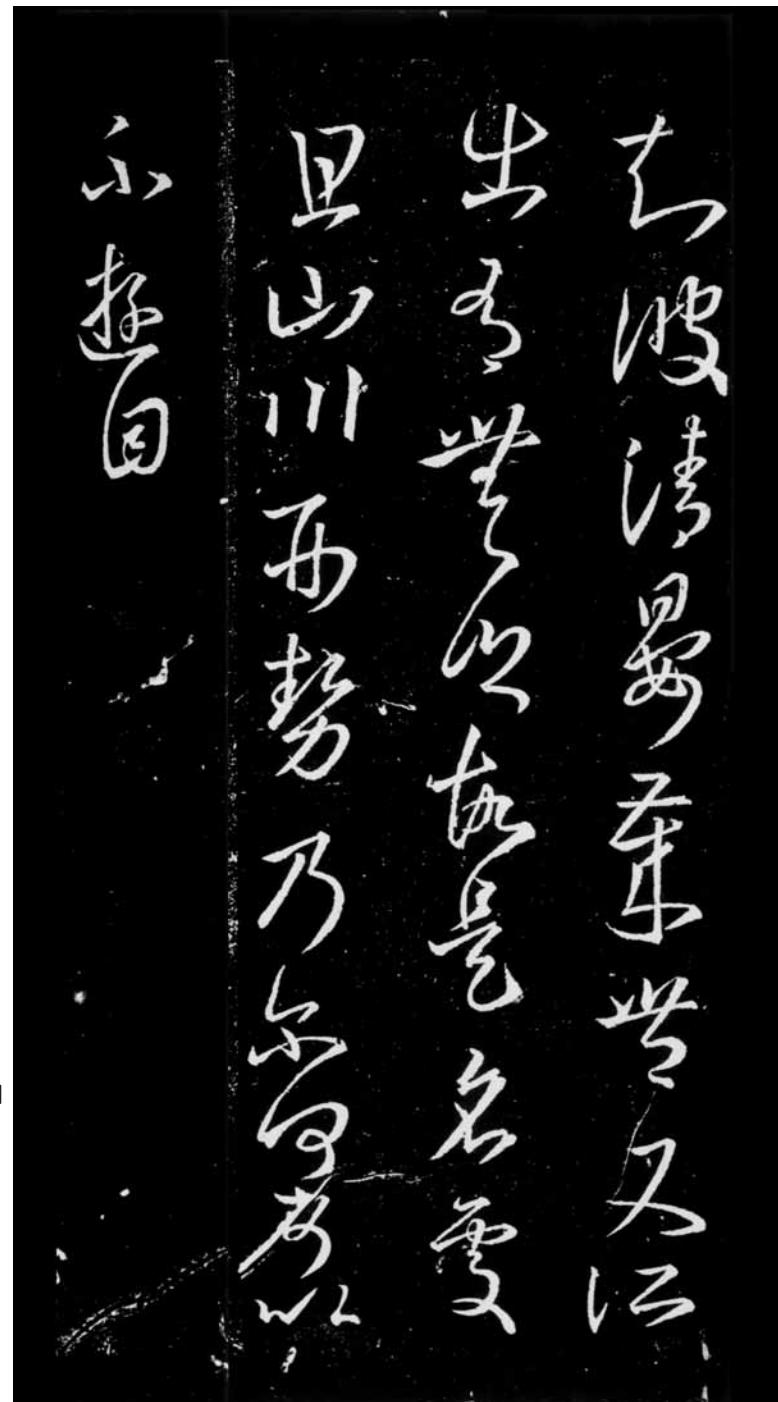
今回は「三井本」を掲載した。2行目の名にあるよう、「断筆」が特徴である。转折が二画に見えるが、書く際に骨格を見失わないよう心して臨書されたい。

（注）出品に際しては、上野本・三井本のどちらを臨書してもよい。

※落款を必ず入れる。署名(も)可
しくは〇〇臨(押印のみも可)

(編集部)

知彼清晏威豐。又所／出有無乏。故是名處。／且山川形勢乃爾。何可以／不遊目。
(注) 3行目「句」は斜めに傷が入っています。



古筆鑑賞

234

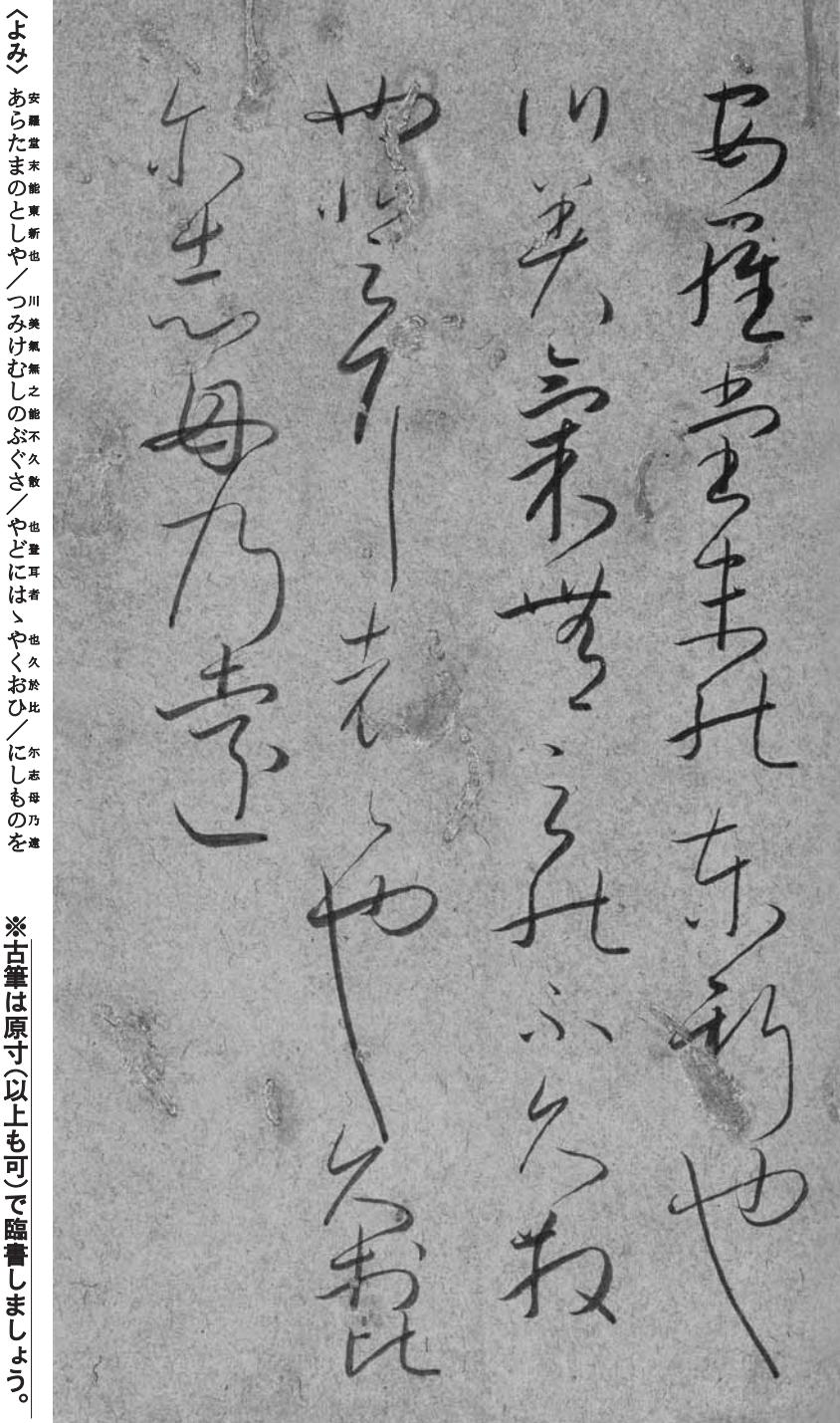
秋萩帖 (3)

解説

42首目「あらたまの」が今月の課題。一見して、文字の大小が目立つが、大きい字が大きくなりすぎないように気をつけたい。また臨書は形臨が基本であるが、上級者は「1首目の書き手(7月号)なら、どのように書くか」という想像を働かせて意臨してみるのもよいでしょう。

(編集部)

新
者



※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

(東京国立博物館蔵)

※掲載図版・85%に縮小

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、 2×6 尺・全紙も可
B. 小品の部=半切以上、半切以内(縦横自由)、全紙以内も可
<いずれも上記の掲載以外も可。>

習い方解説 (六)

坂本素雪

神清智明 (新註墨場必携)
(神清く智明か)

精神清くして知明らかに、知らぬことがない。

粗末な解説で終わつた感じがする。

作風も自由に書いた。だから仕上がった作品を見たら李嶠詩と伊都内親王頌文を組み合わせたような作風になってしまったような気がする。



神清智明 よみ (神清く智明か)

書体=自由

「神」偏と旁のバランスを考える。
申すの最終筆の長さで調整する。
「清」旁の上部は軽く大きく動き
下部は重くどっしりと。
「智」シャキッとした字形にする。
「明」旁の1画目は最後まで筆圧
を加えてしっかりと、2画目は粘つ
こく息の長い運筆で書する。

習い方解説(六)

大平邑峰

上善若水
(老子)
(上善は水の若し)

理想的な生き方とは「水」のようであることだ。



書体＝楷書

この期最後となる今月は、日本の古典、光明皇后の「樂毅論」をイメージしながら書いてみた。王羲之の「樂毅論」を臨書したものであるが、かなり皇后らしさ（線の強さやメリハリの効き）が表に出たものと感じる。5月に東京国立博物館で「光明皇后発願一切経（五月一日經）」を見ることが出来た。しばし見とれていたが、皇后の「樂毅論」に通じる筆意・筆力を感じた。当時の写経生によるものと思われるが、仏教に傾倒されていた皇后も写経をよくされたのではと思いを馳せた。

一つの古典を修得するということはなかなか難しいし、時間もかかることと思う。目標を持った腰の据わった学習をしたいものであ

かな規定 初段以上【十月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

平川峰子選書

習い方解説 (三)

平川峰子

おもしろうつてやがて悲しき鵜舟かな
(松尾芭蕉)

鵜舟

やまとす

鵜舟

芭蕉句

よみ方 おもしろう(樓)うてやが(可)て(亭)悲(か奈)しき(支)鵜舟か(闇)な(那) 芭蕉句

創作

松尾芭蕉は、江戸時代前期の俳諧師で、俳句を単なる言葉遊びの芸事から世界で最も短い詩として文学にまで高めました。1644年に伊賀国(現在の三重県)に豪農の次男として生まれました。

鵜飼の一夜が更けて鵜舟の帰りゆくところはあれほど鵜飼をおもしろがっていた心がそのまま悲しく切ない思いへと変わってゆくことだ。華やかさが消えた後のあの何とも言いようのない寂しさを表現した句。

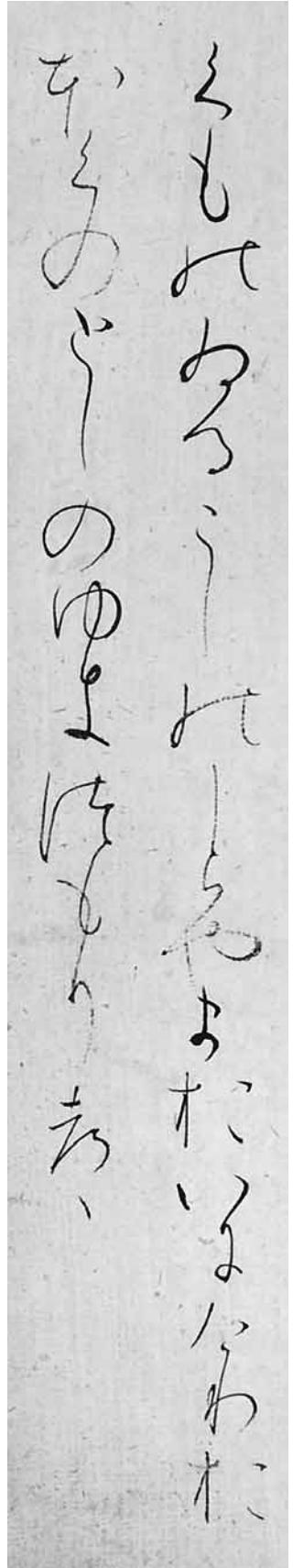
散らし書きの構成の時、しが含まれていると作品らしくなります。二つのしが同じにならないよう気をつけてください。

* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使いましょう。

かな規定 秀級以下【十月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。)

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 く(久)もの(能)るるこしの(能)しらやまお(於)いに(尔)け(介)り(利)お(於)

ほ(本)く(久)のとしのゆき(文)つ(徒)もり(都)、

〈注〉署名は「〇〇齋」として下さい。

習い方解説 (三)

小島孝予

選書

名月や草のくらみに白き花
(浅井左柳)



美しい墨色の濃淡を表現するには、適度な含墨が重要です。

書き出しは、「…草の」をやや

渴筆で表現できるように含墨を控え目にしました。次の「く」で墨継ぎをしますが、字数の多さで下部が重くならないよう含墨に注意することで墨色に自然な変化が生まれ、1行目との響き合いも美しく、流麗な作品に仕上がりります。

よみ方 名月や草のく(久)ら(良)み(身)に白(しろ)き(支)花

*タテ形式に限る

創作

漢字条幅規定 初段以上 [十月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

後藤大峰選書

習い方解説 (六)

後藤 大峰



樓倚霜樹外。鏡天無一毫。南山與秋色。氣勢兩相高。
(樓は倚る霜樹の外、鏡天一毫無く、南山と秋色と、氣勢兩ながら相高し)
〔杜牧「長安秋望」〕

*ヨロ形式に限る 書体=自由

出品券 貼付位置 →

（小篆）
龜
（金文）
龜

今日は「西周金文」を駆使して五言絶句、20文字を書きました。横作品は縦作品と異なり、特に単体で仕上げる今作品等は、布置を確実に書かないと全体にまとめ方が難しい感じがあります。そのあたりに留意し書作してみて下さい。

〔編集部・注〕「毫」は篆書では「豪」となります。ご確認をお願いします。

漢字条幅規定 秀級以下 [十月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

高田幽玄選書

習い方解説 (六)

高田 幽玄



書体=自由

私の担当は今月で終わりです。最後は半切2行作品に取り組みます。草書体を交え、連綿を2か所入れて、変化を求めます。画数もかなりの差があります。墨つぎは2か所、右の行の「秋」、左の行の「心」。左の行の「万里」は草書体で連綿させ、右の行との対比をはっきりさせます。変化と調和が作品の目指すところです。更なる精進をお祈りいたします。

三湘愁鬢逢秋色 萬里歸心對月明
(三湘の愁鬢秋色に逢い 万里の帰心月明に対する) (蘆綸 晚次鄂州)

東福青篁

秋の夕日に照る山紅葉
 濃いも薄いも数ある中に
 松をいろどる楓や蒿は
 山のふもとの裾模様

紅葉より 青篁書

書体＝自由

今回で担当は最後となりましたのでもう一度唱歌をとり上げました。
 東山魁夷画伯は信州を「私の作品を育ててくれた故郷」と語られています。「紅葉」は4月号「臘月夜」と同じ、高野辰之氏の作詞によるものです。幼少時代を過ごした信州の自然を織り込んだ唱歌や校歌の作詞を数多くされています。

この詩では、濃淡の異なる紅に映えた山麓の紅葉こうようが、色鮮やかに表現されています。春の花の色彩とともに、幸せを感じられる美しい日本的な情景です。

秋の夕日に照る山紅葉
 濃いも薄いも数ある中に
 松をいろどる楓や蒿は
 山のふもとの裾模様

「紅葉」より ○○書

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
 ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさにばらつきが見られます。
 用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

菊月 秋彼岸 重陽の節句

菊月 秋彼岸 重陽の節句

野分の後の青空と涼やかな風

野分の後の青空と涼やかな風

片岡 豪峰

菊月 秋彼岸 重陽の節句／野分の後の青空と涼やかな風（それぞれ楷書・行書の順で書く）

(楷) 重陽の節句
(行) 野分の後の青空と涼やかな風

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の名前(号)を (掲載手本原寸)
◇ 用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る

今月の

ホープ作品

各部総評

NO. 747

漢字部 師範 尾形 紅霞

重厚な線に爽快感を漂わせた細線が調和し、流動的活力を端正に表現した手腕に敬服。

◎漢字部総評 行草作が比較的多かった。狙いの甘さがリズム感の乏しさを生む。作考手本一辺倒にならず学書してほしい。(石雲評)



漢字条幅部 師範 加瀬 恵芳
曹全碑を基礎にした八分隸。波磔が柔らかく優雅。字形、章法とも安定。隸法に熟達し、鍛錬度が高い。



かな条幅部 師範 下津 舟楓
透明感のある線で、円やかなリズムが目を引く。1行目もう少し動いてもよいが、潤渴が群を抜く。◎かな条幅部総評 加工紙にも種類があり、ニジミが出るのはリズムが出しにくいので避けたい。線は太細を意識しましょう。(洋子評)

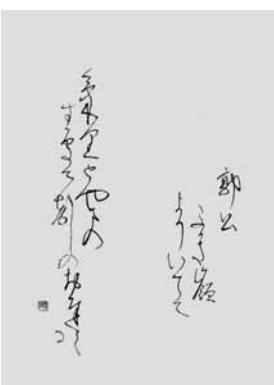


◎漢字条幅部総評 下級は出品数の増加を期待する。上級は線質の良否が鍵。筆の工夫と、充分な鍛錬が上質な線を生む。(萬城評)



かな部 師範 平山さだ子
行間、行の長さを深慮し、余白の美を含めて完成した作品に仕上がっていて見事。

◎かな部総評 習い方解説の参考手本を見て仕上げる場合、線の太細、行間、行の傾きをよく観察して下さい。字形の再確認も重要です。(希雲評)



現代詩文書部 特選 田中 翠恵

平凡な構成であるが、端正な文字造型と自然な筆遣いに実力を感じる。落款部の工夫が望まれる。

◎現代詩文書部総評 意欲的な作品も多いが、用具の工夫を望みたるものも見られた。(国峰評)



前衛書部 特選 阿部 昴里

豪快な筆圧、紙面にこい込み迫力ある作品に仕上がり見事。

◎前衛書部総評 独創性のある構図、構成の表現により挑戦を。

(仙岳評)

ペン字部 師範 秋谷 美里
字間行間申し分なく均齊のとれた作。筆圧もペン先で自在に表現し大変美しい作品に仕上りました。応えのあるかな多数。濁点抜け、脱字散見。書き終えた時点で今一度読み合わせましょう。(雪枝評)

◎ペン字部総評 概ね字形良く見えた。筆圧もペン先で自在に表現し大変美しい作品に仕上りました。応えのあるかな多数。濁点抜け、脱字散見。書き終えた時点で今一度読み合わせましょう。(雪枝評)

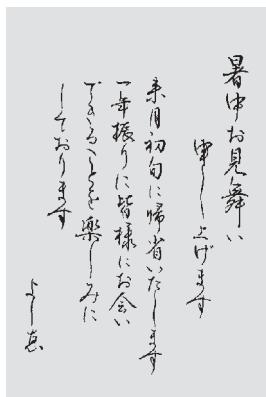
実用書優秀作品

選評 鈴木せつ子

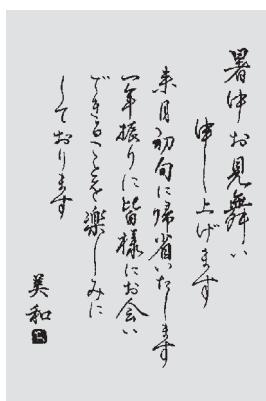
◎実用書部総評

穂先を上手に使いこなし丁寧で温もりを感じる作品が多く見られました。
一方 墨量と字粒に一工夫して欲しい方もあり。
(せつ子評)

特選 苗代佳恵
均整のとれた字形で穏やかな線質。
流麗、優雅な作品となつて見事。



特選 北爪美和
強い筆致で最高の出来ばえ。躍動感あり流れもよく堂々たる作品。



た	樹	中	東	立	日	白	も	深	千	大	こ	高	まく	竹	もく	江	伊	清	こ	桜		
か	原	川	總	精	新	珠	大	千	葉	雲	こ	真	北	北	北	龍	呂	月	だ	草		
猿	葛	大	薄	石	渡	西	多	竹	驚	加	岩	秋	青	鶴	苗	小	高	木	こ	木		
渡	島	田	股	橋	西	山	胡	浪	山	藤	井	ノ	木	見	代	林	木	木	だ	木		
葦	蕙	竹	春	白	嘉	葵	三	叙	汀	美	口	眷	郁	鷺	英	嘉	英	晴	江	和		
	右	美	鳳	綠	慧	龍	象	舟	梢	陽	峰	春	華	幸	美	嘉	英	江	和	恵		
一一	華	秀	啓	大	生	上	誠	深	亀	深	雲	紅	清	竹	明	八	A	紅	墨	有		
新	心	仙	水	佳	雲	大	里	大	松	雀	瑞	月	入	香	真	高	真	I	墨	綠	秋	
小	小	菊	門	春	奧	太	大	石	池	浅	秋	藍	相	横	矢	松	尾	江	瑤	遊	瑤	
林	坂	地	脇	日	村	田	澤	井	田	野	山	澤	川	山	原	原	島	川	木	百	合	
萌	素	惠	信	裕	良	よ	し	甘	光	直	弘	雄	白	峰	蘭	香	幸	宗	楓	千	代	
佳	子	水	子	子	子	水	子	子	子	子	京	子	子	泉	舟	苑	希	汀	子	高	津	子
千	楓	華	華	八	八	粹	譽	秀	上	書	秀	掃	立	清	玉	耕	前	麗	佑	秀	高	
(選外)	漏	会	仙	仙	街	街	仙	田	大	街	泉	水	雪	月	州	雲	澤	外	敏	崎	崎	
468	名	渡	吉	山	柳	村	藤	平	林	橋	西	新	永	富	津	千	本	須	藤	野	原	
名	氏	名	泰	裕	本	瀬	上	田	井	本	村	村	井	澤	田	山	松	和	松	千	子	
略																						

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



初紫江
加代子
惠津千子
四有唯一
五津夏悠
六津香
雅菜
圓
蒼
風
字
宇宙
の
流
れ
構
成
線
の
構
成
字
宙
を
見
る
雄
大
充
実
の
作
業
し
く
響
き
あ
り
良
い
美
妙
な
作

多様な線質、氣力十分
紙面を引き裂く線見事
墨色余白美のバランス良
筆先の使い方楽しく舞う
余白を生かしてまとめる
意表をつく3行丸い構成
大胆に点画を放つ

選評 大石仙岳

良京
睦
白
慧
月
香
蒼
風
白
慧
月
香
藤
連
美
心
華
子
華
華
登
志
子
悠
長
鋒
の
切
つ
先
が
よ
く
効
く
墨
量
の
変
化
自
然
筆
の
開
閉
自
然
で
心
地
良
い
柔
ら
か
で
暢
び
や
か
な
筆
致
長
鋒
の
切
つ
先
が
よ
く
効
く
墨
量
の
変
化
自
然
大
小
の
文
字
見
事
に
調
和
大
胆
な
用
筆
と
構
成
見
事
線
よ
く
効
き
墨
量
豊
か
巧
み
な
横
書
き
の
構
成
功
大
胆
に
点
画
を
放
つ

叙述的情的な淡墨美しい作品
確かに造型説得力ある作
大小の文字見事に調和
大胆な用筆と構成見事
線よく効き、墨量豊か
巧みな横書きの構成成功
気持ち良く長鋒書き通す
氣持ちはよく長鋒書き通す
墨明るく光り安定作
筆先の使い方楽しく舞う
余白を生かしてまとめる
意表をつく3行丸い構成
大胆に点画を放つ

四幸
夏雲
雨
落
ち
着
き
あ
る
用
筆
好
感
大
き
な
動
き
で
横
に
展
開
メ
リ
ハ
リ
あ
る
筆
遣
い
功
能
筆の開閉自然で心地良い
柔らかで暢びやかな筆致
長鋒の切つ先がよく効く
墨量の変化自然
大きな動きで横に展開
落ち着きある用筆好感
メリハリある筆遣い成功

選評 大平邑峰

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

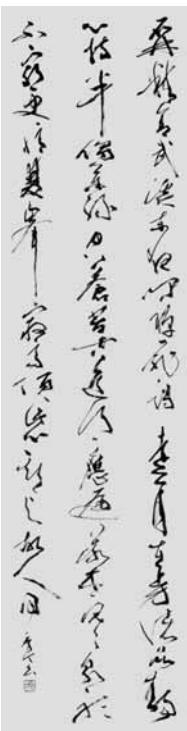
選評 下谷洋子 種谷萬城 田村鄭雲 倉林紅瑠

小品の部

漢字(水茎)

高岡秀汀

「贈銭起秋夜宿靈臺寺見寄」



高岡秀汀書

135×35cm

◆行間を広く取り、縱への流れを強調し成功した。線は整快な動きがあり、曲直を交えた巧妙な行草書。
(萬城評)

現代詩文書(京橋)

田中一葉

「恵子の歌」



田中一葉書

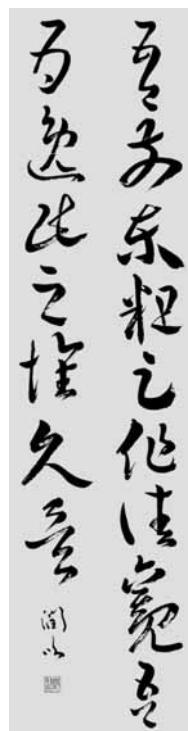
135×35cm

◆一文字ごとに作者の思いが込められる。正確な文字で深い動きが叙情を醸し出す。鋭い筆致で余白も美しい。
(鄭雲評)

臨書(華祥)

小泉潤

「十七帖」



小泉潤書

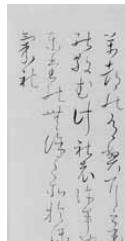
135×35cm

◆温和な上野本十七帖の趣を巧みに表現した。線の表情と字形を的確に捉えた臨書で好感が持てる。
(萬城評)

小品の部

部分拡大

臨書(上泉) 早部朗 「秋萩帖」



創作の部(38点)	
漢字	17点
かな	12点
現代詩	17点
前衛	11点
篆刻	1点

総出品点数
74点

〔特選候補者〕
(創作の部)

〔漢字〕
東西伊藤牙城

「かな」
玉川谷知裕美子

「かわ」
原澤雄一

「前衛」
喜代美

「篆刻」
井戸端流

「現代詩」
香波麗

「漢字」
佐藤喜代美

「かな」
玉川谷知裕美子

早部朗臨

臨書の部(36点)	
漢字	11点
かな	12点
現代詩	17点
前衛	1点



早部朗臨

35×135cm

◆秋萩帖はリズムが難しいが、伸びやかに筆を操り、息の長い渴筆が見事。特に収筆の処理に秀である。
(洋子評)

漢字
(臨書の部)
澄春
天満
本郷
谷惠
新行内
明琴
八街
加藤
土屋
三浦
永量
井戸端
原島
春汀
春
雅芳
小樹
惠仙
芳蘭
春汀

大作の部

前衛書（大拙）阿部俊吾「躍動」



◆宿墨による滲みの広がりが印象的で、切れ味鋭い細線とのバランスが絶妙。瞬発する飛沫が生み出す大きさりズムもまた魅力。気迫に満ちた作となつた。
(紅瑠評)

◆大きな構えで、生き生きと表現され清涼感が漂う。墨量も適切で変化がある。最終行の墨が作品を引き締めた。
(鄭雲評)



重村 恵月 書

101×101cm



森田 藤谷 書

175×55cm

◆宿墨による滲みの広がりが印象的で、切れ味鋭い細線とのバランスが絶妙。瞬発する飛沫が生み出す大きさりズムもまた魅力。気迫に満ちた作となつた。
(紅瑠評)

漢字

(もくせい)
森田 藤谷
「櫂歌」

阿部俊吾 書



◆超長峰による筆の開閉を巧みに駆使し、紙面に動きとリズムを生み出した。余白美しく上下の2部構成も冴え、爽快な印象を与える作。
(紅瑠評)

創作の部(36点)
漢字——3点
かな——11点
現代——4点
前衛——18点
臨書の部(9点)
漢字——7点
かな——2点

総出品点数
45点

〈特選候補者〉
〔創作の部〕
「かな」
宗苑 白井 真理
「漢字」
伊呂 鈴木 英晴
水塹 伊澤 香雨
奥田 藤井 清華
松延 藤原三枝子
水茎 清水 蘭舟
篤信 三浦 朱鳳
容洲 阿部 邑里
蓮紅 本田 美雪
松風 西條 信子
玉州 角張 芳蘭
秀水 門脇 信子
千葉 竹浪 春綠
東総 薄田 美雪
大雲 江本 叙舟
千葉 猪又 理扇
「かな」
〔臨書の部〕
千葉 猪又 理扇

漢字研究部
(十七帖)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



中村 豊苑



芳美純一み真
和 ゆ
博子夫起き葉

桂黄紫有祥恵
子翠炎津扇子

幸泰邑早瑞香
子香里紀華溪

雅美佐代子
泉楓子秋晴

漢字研究部 特選 中村 豊苑

深く落ち着いた線質で書かれ、加えて筆力も充実し、余白が明るく生かされています。筆脈も通じ、明るいリズムが感じられる秀作です。配字に一考を要するかと思います。今後の研鑽に期待します。

◎漢字研究部総評

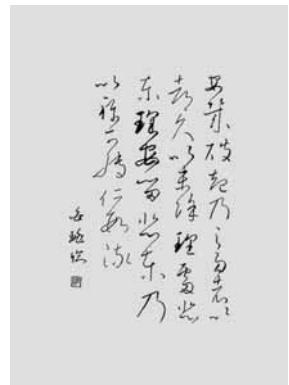
今回の作品は慣れ親しんだ作品とみえ、全体的にレベルが高く、誤字等はほとんど見ら

れませんでした。したがって選外の作品の中にも良い作品が多くみられましたが、入選数の制約があるため、残念な結果となつた作品もありました。選外の作品の中には、墨量の不足した作、線の厚みがたりない作、筆脈が切れてしまった等、今後の学習に期待したい作品も少なくありませんでした。尚一層の努力をしてください。

かな研究部 (秋萩帖)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



藍澤白瑞

かな研究部 特選 藍澤白瑞
書きにくい紙に濃墨で、穂先をコントロールしながらゆったりと臨書しています。字形をひとつひとつていねいに確認する地道な学書が実を結びました。

◎かな研究部総評

今月から「草仮名」の学習です。根底には王羲之の草書があります。羲之を臨書したあとでこの課題に取り組むと、何かをつかむことができそうです。

かな研究部成績表



芳百合
博子恵

和美蘭
江和舟

美悦綾
梢子奈

香松恵
舟美子

一森青う水清姪
心地湖る海月和秀

和高八清一光大上文正坂薰素紅桜蒼こ竹大葉五紅甲葉紅
平井街月心彩雲泉月華 書雪藻草田だ美雲月川瑠和月瑠

◎特選

石池た飯飯飯安作
森田治高泉島安トト百

井星村小錦櫻三塚仲杉石坂高苗平北横驚島佐須高新区
上野上林織田浦本川浦田木本木代野爪山山 藤田井澤

博幸朱幹洋ミ美

英由佳嘉さ龍道え信幸悦里芳合佳和美蘭美悦綾香松恵白

子子音生子子悠

二紀月江子貞子夫子夫子美博子恵江和舟梢子奈舟美子

一玉心松佳

華清大琇た白大泉安紅童白 澄東清一青正こ大森澄上薰正高た『澄た大
仙月雲韻か珠雲会波風泉露 春小月心湖華こ雲地春泉書華井か』春か雲

秋青葉木作

柳真日林浜西名永千田高春鈴新佐境小北金加片片加柏岡岡樺梅宇岩岩磯貝

ミエ姫

瀬下高 野山取田葉烟橘原木行々野坂嶋田藤山桐瀬谷村田田津田瀬崎貝

仙楓も白珠入

こ華竹玉松中梓千蓮紅澄上正東は姫上姫一麗春立千や清華澄麗土扇竹 A 富潮梓秀大蒼千秀東樹書青も芳千蘭日

台会く珠入

だ仙美川村川江葉紅風春泉華向せ路泉路草澤汀精葉ま月仙月春澤氣筆原 I 貴音江歛雲陽歌歌向原遊蓮く蘭葉鼎新

熱浅青相海井木内

吉山八森茂三松松本深早林畠長乘根西中富渡千玉田竹竹高高須杉新代清坐齋権小黒熊木菅葛小小岡及猪市石

桃和藤珠翠

野口木田木田永嶋田津堀部 山谷船岸川村田子田沢玉澤井山橋藤田條田水木千代藤代池柳井村下野寺

翠江漣莉

美喜久 れ 幸 幸 幸 幸 幸 幸 幸

高天沙も玉若有に竹伊富高

菁書蘭正華八た大蘇蒼 春竹芳高こ大大華白 蘭大華書明玉 正秀こ A 清誠澄帝八花八田幕

真璋莉く川松秋

竹扇呂貴崎』 潟泉鼎華仙雲か拙我風』 汀美蘭崎だ阪雲仙扇 鼎雲祥泉漢藻』 華歛だ I 月和春塚街舞無張

武田瀧高高高瀧鈴菅神白下七島柴篠七猿佐佐佐佐櫻

小小小高菊神川川河加片小荻大大大梅生牛鶴植今井伊石飯阿

井口口村原橋尾木原宮石村芸田田塚條渡藤木々々田藤峰松林武地田元崎合藤岡澤原源渡千由保

香す由千

木木 美千 由千

一代み藤貞美代小京英昌玉彩日和貴洋謙裕菴陽育淳和智江加惠

萩玄惠典茱優和雅照和王 虹美雅琴紅筝悦翠郁青

江子舜子子秋子晴子枝絵香美子心美右子嗣風子子舟影子敬芳德子子舟雨蘭峰子径子沙

選恵高明蓮華幸無や明椿高あた生菁文八白石幕高澄上青も橋生掃椿長一白青蒼も書隆水蒼洞上大蒼大堺清掃恵千玉有墨

外泉井漢紅仙扇門ま香翠崎かか大湖月街露習張真春泉湖く雅大雪翠月弦露蓮湖く泉雲堅田書泉雲田阪

120渡吉吉遊山山山矢安矢本宮水三三松松松增本本藤藤福平原早野沼西西永長永長中中中中中利德津田種田武武

名邊田田佐本本口部鷗口吉柳下野浦浦村丸島尾田多田郷原本富山澤坂口田澤川井井村村村林野西守江田村谷中山田

氏ゆ千

有登か久

名信り鶴紅美梅清律香砂明小樂城真小陽愛翠希華和彩谷瑩牧つ典聖美奎

藤伯久悦保寛ゲ清美恵佳淳李恵森耶花宗

略代か子雅楓香玉子苑子江香翠翠子石舟子秀枝桂蕙子子朋子心希象泉仙子子子香子子理子花石城衣源

書展

第37回書泉会会展

畠中弄石

会期＝令和5年7月11日(火)
～16日(日)

会場＝鳩居堂画廊

第37回書泉会会展が、東京銀座の鳩居堂画廊の3階・4階で令和5年7月11日(火)～16日(日)に、連日の炎暑の中開催された。37回展を楽しみにして待ち遠しく思われた人たちが、毎日会場を賑わせる盛況で、出品者の皆さんは一層気を引き締めて来客に対応されていた。

美しい料紙に仕上げられたかな作品はどの作品も格調高く、見応えを感じさせてくれる。

3階には書泉会主宰の下谷洋子先生の作品2点と、東雲先生の遺墨作品が飾られ、幹部作品が並ぶ。東雲先生の傍には枯梗が添えられ、優しさに溢れた東雲先生のお人柄が偲ばれる。

下谷洋子先生の作品は構成が自在で、リズミカル、爽やかさを感じさせ、確かな造形を超えた独自の美しさが際立っている。幹部の先生方の作品も、それぞれが自分の世界を創られて素敵であり、次回作も楽しみだ。

4階では“つばみ7人展”と題し、若手7人が大作に挑み、スケールのあ

る大胆さを、あるいは繊細なリズムが織りなすたおやかさを、それぞれ個性的に表現している。若手にこれだけの壁面での発表の機会を設ける下谷先生のお心には、書泉会のさらなる発展を願う思いがあるのだろう。

また同じ4階に“貼りまぜ”と題し、大きな壁面に41人の作家がそれぞれの小品をバランス良く貼り合わせ、これまたスケール大きい壁面に仕上がっていいる。書泉会の明日はますます明るい！

という思いを胸に会場をあとにした。



会員による貼りまぜ作品



会場風景

○予告

後援申請書を書展会期2ヵ月前までに提出して下さい。

○報告（訪問記）

400～450字程度（1行17字詰）

会場風景、作品写真等2枚まで

○写真の裏にキャプションを必ず明記して下さい。

・書道芸術院後援の展覧会に限らせていただきます。お知らせのあった書展のみ掲載いたします。

・訪問記掲載の場合、編集部まで事前にご連絡下さい。

編集部

後援申請について

後援申請をされる場合、書道芸術院所定の申請用紙でお願いします。

事務所にご連絡いただければお送りいたします。

・代表の方の団体、社中における役職名を明記して下さい。

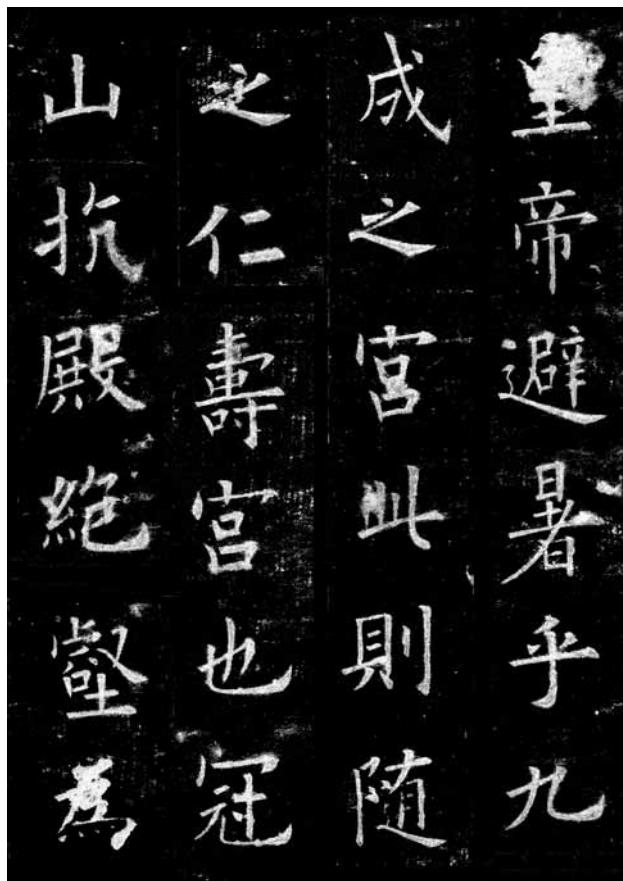
予告

2023・10月号(750)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(11月15日締切)

古典鑑賞

④ 九成宮醴泉銘(唐・歐陽詢) ①

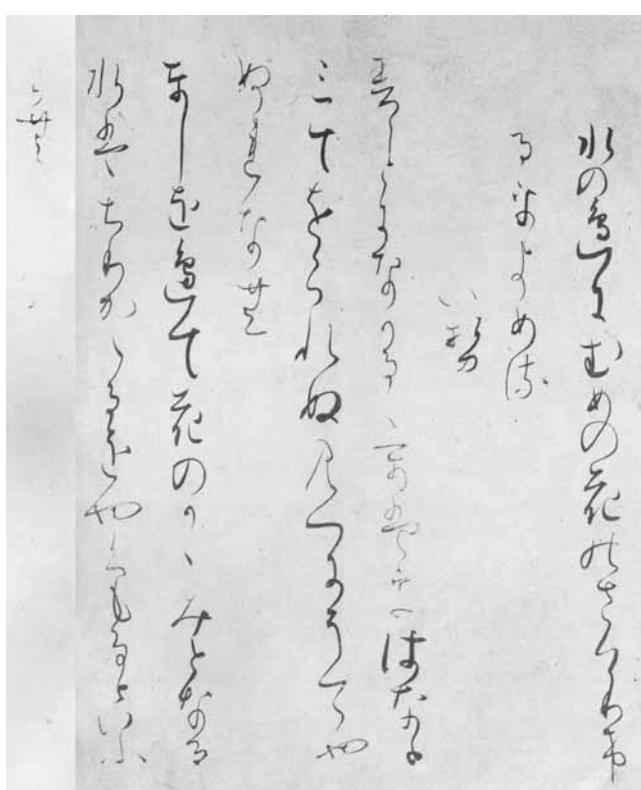


(三井記念美術館蔵)

(掲載図版・52%に縮小)

古筆鑑賞

㉓ 関戸本古今集 ①



(掲載図版・50%に縮小)

皇帝避暑乎九成之宮。此則隨之仁壽宮也。冠為山抗殿。絕壑爲

よみ 水の邊にむめの花のさけりけ／るをよめる／いせ／春ごとにながるゝか
をはなど／みてをられぬみづにそでや／ぬれなむ／としをへて花のかゞみは
となる／水はぢりかゝるをやくもるといふ／らむ

●篆刻

【十月十五日締めきり】

〈出品規定〉

- ① 墓刻 (ア)課題による語句
(イ)原印自由

(出品の際、原印のコピー添付)

- ② 創作 語句自由



9月号 墓刻課題

- 印面の大きさは3.4cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、墓刻とも応募は一人一点。

◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏名)を入れる。

(墓刻)	
特選 小野寺 幸喜	特選 高岡 秀汀
芳琴 特選	幕張 阿部 青沙
中庄川司 片岡 美峰	北栄 新美
研治 桜空 空	成田 万丈
生香 大木 丸山 桃香	平塚 能喜
大書 石川 加藤 由香	青沙
(選外なし)	

(創作)	
秀水 善	高岡 秀汀
吉田 野木 岩坂 大沼	高橋 荒川
恵葉 華覚 楊山 峰	赤星 文庵
(選外なし)	

定価	
下谷洋子	750円
編集兼	
印 刷	
発行所	

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和五年八月二十五日印 刷
令和五年九月一日發行

(毎月一回一日發行)

書道芸術

第七四九号

747号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

篆刻

創作

今月の注目作



「唐石齋」



「柳明」



「蝶と花」

野木紫蘭

佳作(50音)

◎篆刻部總評 全体に秀でた作品が多くありました。特に創作においては前衛的な作品が散見されました。これは新たな展開かと思います。
(大峰評)

野木紫蘭

佳作(50音)

送 料

1か月の購読部数が

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は
送料免除

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土日・祝日は休む)

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
101-0031 東京都千代田区
東神田一ー一六一七
東神田プラザビル三階
電話(03)3862-11954
FAX(03)3862-11957
振替 00150-4-1150558
[ホームページ](http://www.lms.co.jp/shogei/)

101-0031	東京都千代田区東神田一ー一六一七 東神田プラザビル三階
電話 (03)3862-11954	FAX (03)3862-11957
振替 00150-4-1150558	ホームページ